

厚生労働省：第8回チーム医療推進に関する検討会

チーム医療推進協議会

～患者が満足できる最良の医療のために～

平成21年12月21日(月)

チーム医療推進協議会代表

北村 善明(日本放射線技師会会長)

チーム医療推進協議会構成メンバー

- 日本医療社会事業協会(医療ソーシャルワーカー)
- 日本医療リンパドレナージ協会
- 日本栄養士会
- 日本看護協会
- 日本言語聴覚士協会
- 日本細胞診断学推進協会細胞検査士会
- 日本作業療法士協会
- 日本診療情報管理士会
- 日本病院薬剤師会
- 日本放射線技師会
- 日本理学療法士協会
- 日本臨床工学技士会
- 患者会・山梨まんまくらぶ
- 日本病院会(オブザーバー)
- 毎日新聞社(小島正美:アドバイザー)
- TBSテレビ(小嶋修一:アドバイザー)
- 医療ジャーナリスト(福原麻希:アドバイザー)

チーム医療推進協議会

～患者が満足できる最良の医療を提供するために～

◎ 本協議会の目的

私たちは、

『ひとりひとりの患者さんに対してメディカルスタッフがそれぞれの職種を尊重し、さらに専門性を高めて、それを発揮しながら患者が満足できる最良の医療を提供する』体制を推進し、全国に普及する。

協議会の活動内容

1. 全国の医療現場の現状と課題の調査・分析

チーム医療の現状と問題点を検討し、協議会からの報告と提言を出していく。

2. 職種間連携のための教育、研修等の開催

チーム医療を円滑に実践できるよう、お互いの役割、仕事内容、教育背景などを知る機会を作る。

3. 各職種の地位向上

メディカルスタッフのスキルやキャリアについて病院内外に評価を求め、適正な診療報酬や院内配置基準設定を提言し、質の高い医療実現のために必要な人員を確保する。そのための予算を政府に訴え理解を求める。

4. 広報および啓発

各職種の仕事の役割や内容の重要性、魅力を市民に積極的にアピールし、その必要性を知ってもらう。

経過と今後の取り組み予定

【発足までの経過】

- ・平成21年6月19日第1回準備会
- ・平成21年7月24日第2回準備会

【発足後の経過】

- ・平成21年9月24日第1回チーム医療推進協議会
－12月3日現在 第4回協議会開催－

【今後の取り組み予定】

- ・平成22年6月 「チーム医療に関する提言(第1報)」(仮題)
- ・平成22年度～23年度
 - 提言に基づく評価、調査、分析、検証
 - 国民への広報啓発活動
 - 最終提言へのまとめ
- ・平成23年度以降 「チーム医療に関する提言」(仮題)

検討の経緯（課題の抽出）

平成21年9月24日第1回協議会のフリーディスカッションから

- ・医師の指示、各職種の法制度の課題
- ・各職種の養成教育および資格取得後の卒後教育の課題
- *「チーム医療」多様性(疾患別、業務別、その他)



参加職種自身がお互いの職種を知る必要性！



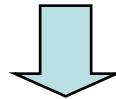
各職種から役割とそれぞれが抱える課題を提示した

- ①人員数や適正配置
- ②法制度上の役割や業務の解釈
- ③専門技術やチーム医療に対する評価

以上、3点に集約された。

課題1：チームの構成と過剰労働問題

- ◆日本では、医療職種の人数が少ない(OECD Health Dataなど)。
- ◆1人職場などが多く、業務が多忙となっている。
(業種によっては、6～7割の職場が一人職場)
 - チームに資する働きができていない。
 - 卒後の生涯学習に参加しにくい、知識・技術が向上しない。
- ◆職種の配置の基準がなく、チーム自体の構成メンバーが乏しい。

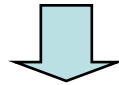


【解決策の提案】

効果的なチーム医療を実施できる体制を整備する。

課題2：卒前教育と卒後教育

- 修業年限・内容が、医療の進歩に追いついていない。
- 「チーム医療」について、卒前教育(養成教育)が十分でないため、その必要性が理解されていない。
- 職種によっては、卒前教育における「臨床教育」の格差が大きい。
- 各職種で卒後教育を実施しているが、社会的評価が低く、インセンティブに結びつかない。また、参加できる機会がもてない。



【解決策の提案】

1. 「チーム医療」かつ「社会状況や医学の進歩」に資する教育水準に引き上げる。
2. 専門職の教育は専門職種自身で行う。
3. 卒前臨床教育内容の充実と実習指導体制の整備を図る。
(チーム医療に関する講義科目を含め設定する。)
4. 研修へ参加できる環境を整える。
5. 各職種の卒後教育制度を整備し、専門性の評価につなげる。